



そしん

第41号



発行/社会福祉法人 素心会
 責任者/事務局次長 高瀬 尚人
 〒259-0103
 神奈川県中部大磯町虫窪 39 番地 1
 TEL.0463-71-1255
 レイアウト・印刷 貴峯荘ワークピア



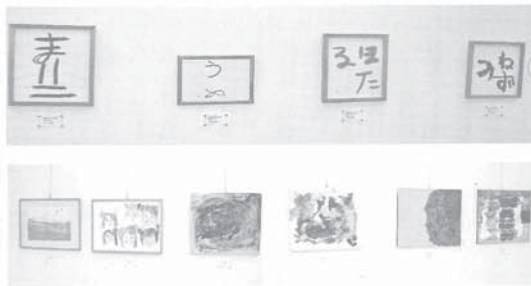
心創展

開催期間

平成20年2月6日(水)

～2月11日(月)

延べ300人の方が来場されました



(素心学院 熊澤 貴弘)

今年で十七回目を数える心創展が開催され保護者、その他多くの方々に利用者の作品を紹介することができた。

「素晴らしい作品だー」、「心が和まされる」などのたくさんの感想をいただいた。陶芸・絵画・書道の作品は、いずれも個性が溢れている。

開催中、受付を一日任せられた。かつて素心に関わっておられた方が見えられ利用者の作品とそこに書かれている名前を一目で覚え、懐かしそうにお話をされていた。

その当時から現在まで素心は在り続け、そしてこれからも歴史は続いて行くだろう。その歴史の中に自分たちは存在し、携わっている。素心のために自分は何ができるのか、改めて考えさせられた。

虫窪24番地

むしくぼ ニジユウパンチ

理事会・評議員会の動き

第九回評議員会

- 一 平成十九年二月二十四日(土) 障害者自立支援法に基づき新事業体系への移行について、説明を行った。
- 二 新事業体系への移行に伴う定款の一部修正を承認。
- 三 平成十九年度事業計画・予算を承認。
- 四 障害福祉サービス、生活介護・就労継続支援B型実施(事業計画、予算、運営規程)を承認。
- 五 地域生活支援事業 中高生放課後支援事業の実施を承認。
- 六 知的障害者生活施設、素心アイセンターの廃止を承認。
- 七 給与規程の一部改正を承認。
- 八 非常勤職員就業規則の一部改正を承認。
- 九 非常勤職員給与規程の制定を承認。
- 十 旅費規程の一部改正を承認。

第一四七回理事会

- 一 一〇号議案まで 評議員会と同じ
- 十一 守水養護評議員の後任として 西山静子評議員を選任。

第十回評議員会

- 平成十九年五月二十六日(土)
- 一 障害者自立支援法による新事業体系への移行に伴う定款の一部変更手続きの中止及び一部変更を承認。
- 二 平成十八年度事業報告、監事報告の後、事業報告と合わせ承認。
- 三 平成十九年度決算報告、監事報告の後、事業報告と合わせ承認。
- 四 組織・職務権限規程の一部改正を承認。
- 五 マイクロボスの購入及び車種選定を承認。

第一四八回理事会

- 一 一五号議案まで 評議員会と同じ

後援会会員募集

- ◎会費は個人一口、年1,000円から 法人・団体一口、年10,000円から
 - ◎会員には、新聞「そしん」をお送りします。
 - ◎行事のご案内などをします。
- 会費の納入先

銀行振込は
 中南信用金庫国府支店
 014-0139723
 郵便振替はどこの郵便局でも
 00270-0-19507です。

□座名は
 社会福祉法人素心会后援会
 会長 鈴野七郎

※新しく会員になる方はご住所を電話等でお知らせいただくと幸いです。

事務局
 〒259-0103
 神奈川県中部大磯町虫窪 39-1
 素心会后援会
 TEL.0463-71-1255
 FAX.0463-73-0009



(素心アイセンター 浅見 茂)

ありがとうございます

平成十九年八月九日、神奈川県共同募金会様より二百五十万円の助成金をいただき、マイクロボス・日産シビリアンを購入しました。素心アイセンターの送迎バスとして年間活躍したマイクロボスが傷みも多く、利用者の皆さんの大好きなラジオも故障してしまいました。早速新しいマイクロボスに乗車した利用者からは「これいいね」などと大いに喜んでいただけました。

これからは通所の送迎や利用者の日中活動や余暇活動の支援に十分活用していきたいと考えています。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

ありがとうございました。

そしん会事業所アドレス

黒心学院	神奈川県中部大磯町虫窪 39-1	TEL 0463 (71) 1255	TEL 0463 (73) 0009
黒心アイセンター	神奈川県中部大磯町虫窪 18-1	TEL 0463 (71) 1256	FAX 0463 (71) 1284
さざんかホーム	神奈川県中部大磯町国府本郷 1308	TEL 0463 (61) 1519	FAX 0463 (61) 1519
かもめホーム	神奈川県中部大磯町大磯 1370-23	TEL 0463 (61) 5404	FAX 0463 (61) 5404
つばきホーム	神奈川県中部大磯町国府新宿 482-1	TEL 0463 (71) 0990	FAX 0463 (71) 0990
シヤベルホーム	神奈川県中部大磯町大磯 2232	TEL 0463 (61) 5281	FAX 0463 (61) 5281
地域支援センターそしん	神奈川県中部大磯町虫窪 18-1	TEL 0463 (70) 3577	FAX 0463 (72) 2577

前を見て、先を指すのも大事なこと。けれど時には背を振り返り、過去を思い出すのも大事なことです。甘いこともあったけど、辛いこともあったけど。足元を見直すことで何か新しい発見があるかもしれない。

そんなことをふと思つもの桜の花を見ていたから？

出会いと別れの季節が今年もまたやってきました。

(素心アイセンター 石森健太郎)

編集後記

「更生施設」から 「障害福祉サービス事業所」へ

素心デイセンター
所長 伊藤 倫博



素心デイセンターは、これまで知的障害者通所更生施設(定員六十人)として事業を行ってきたが、今年度より生活介護(定員四十五人)と就労継続支援B型(定員十五人)の二つの事業を

行う障害福祉サービス事業所に変わりました。これは、障害者自立支援法に基づく新たな事業形態です。障害種別ごとのサービスから、三障害共通の事業形態になりました。実際には、専門性や設備面な



どを考慮して、これまで実施してきた知的障害者を「主たる対象者」と定め、これまでと異なる知的障害をお持ちの方へのサービス提供を継続していくことになりました。

障害者自立支援法では、新たに障害程度区分が導入され、障害の程度を障害の軽いほうから順に区分一から区分六までの六段階に分けています。「生活介護」は区分三以上の方(年齢が五〇歳以上であれば区分二以上)が対象になります。食事や排せつ等の介助など、日常生活上の支援や生産活動の機会等を提供します。一方で比較的障害の軽い方については「就労継続支援B型」のサービスを使っていたことになりました。就労や生産活動の機会を提供することにも、一般就労に必要な

平成19年度 納涼祭



一つひとつのニーズを大切にしていきたいと思えます。

(素心学院 西垣 宏和)



今年度から素心会のお祭りが一つとなり、職員一同より一層力を入れたものとなりました。今回は模擬店としては初めての試みであるラーメンを出すことになりました。ラーメンを出すきっかけは利用者から「納涼祭でラーメンが食べたい」との一言があったからです。その一言には驚きでしたが、その逆に要望に応えたいと思いました。私自身の経験ですと、夏に汗をかきながらのラーメン、お酒を飲んだ後熱々のラーメンは格別なものであり、それを皆さんと共感できればという思いもありました。ラーメンといっても味は様々で悩みましたが、最終的に「よくない」ところラーメンにしました。当日は大盛況でした。利用者の思いを反映させることが職員最大の仕事であり魅力を感じます。

素心会は児童デイサービスを開始し、素心を利用される方の年齢層は幅広くなっていく今日では、

納涼祭といえば、まずは模擬店。何日も前から「ビールはある? 何を食べられる?」とたくさん質問されましたが、焼そばや焼とりなどテーブルに並べておいて、そう召し上がっていました。初めての目の前で作るラーメンにも「おいしいよ」と返事もらい実行委員としてもホッとしました。

そしてイベント。楽団焚き火の力強いタイコ演奏とダンスに、体をゆらしてリズムをとる



知識、能力が高まった方には、一般就労等への移行に向けて支援することと定められています。

現在、素心デイセンターの利用者は、養護学校を卒業された障害の重い方と素心学院からグループホーム・ケアホームに移り、生活している比較的障害の軽い方がいます。全体的には区分四以上の方が多くを占めています。これまでに障害の程度に関係なくサービス提供ができていましたが、これからは障害の程度に応じて受けられるサービスが異なることになりました。

生活介護では、障害の平均障害程度区分に応じて支援員の配置基準が定められており、利用者何人に対して一人という具合に決められています。重度の方が多くを占めている場合、職員配置を厚くすることができるよう報酬単価が定められています。素心デイセンターの場合以前は利用者四・五人に一人の配置でしたが、生活介護の事業に変わったことで利用者二人に対して一人に増やすことができました。またこれにより支援員の配置をグループ担当制にすることにより、今まで以上に利用者の特性や課題にポイントをおいて支援ができるようになりました。

一方、就労継続支援B型の事業はその名のとおり就労に向けた支援を行う事業です。利用者が毎月受け取る工賃も、最低三千円という決まりがあります。これまで千円だった給料が最低でも三倍もあがるようになったわけですから、利用者の皆さんにとってはプラスになりました。就労Bの作業は、ネコサの鉢植え作業と大磯町環境美化センターでの不燃ごみの分別作業に加えて、昨年十一月から近隣の特別養護老人ホームの清掃作業を受託、更には素心学院の利用者の皆さんの衣類やタオル等の洗濯作業を、今年の九月より受託しました。洗濯作業は、これまで職員で行ってきたのですが、学院では欠かすことのできない洗濯の業務を請け負うことになりました。



したので、安定した収入源を確保したことになります。このように新しい事業体系に移行したことにより、利用者の皆さんへのサービスは高まってきています。職員の意識も少しずつ変わってきています。しかし、これからも継続して地域の障害を持つ皆様の期待にこれ以上以上に、応えていくことが重要で内容の充実に一層の努力が求められています。就労に向けた支援や財政状況においても困難な状況は変わっていませんが、まだまだ皆さんの課題はありますが、素心デイセンターは、これまでとお利用者が元気で気持ちよく通えるスペースであり続けられるよう、一人ひとり個を大切に支援を続けていきたいと思います。

素心会ホームページ完成

作成に着手してから足かけ二年の歳月を経て、ようやくホームページが完成しました。その間、障害者自立支援法の施行やそれに伴う通所施設素心デイセンターの生活介護・就労継続支援B型への移行等々と大きな出来事がある度に修正を重ねての労作です。この先、入所施設素心学院の新体系への移行を控えています。現状の素心会を是非ご覧いただきたいと思えます。「素心会」と検索してみてください。

(事務局 高瀬 尚人)

ホームページのアドレス
<http://www.scn-net.ne.jp/~sosinkai/>





体に宿った運命、障害という名のハードル、支援の必要な人々とその家族の歴史にどれだけ寄り添えているのだろうか。マネジメント、資源の活用、地域連携と言葉が並んでいくが、各々が持っている力をどのように引き出すか、可能性をいかに信じ続けられるか、そこに直接はたらかけるサービスは無い。命をみつめ、人に向き合う姿勢・関係のもち方や感じ方を基本とする相談事業自体が担っている役割にちがいないのだ。気持ちを含めて丁寧に築く信頼関係そのものがニーズとなり、固有の物語が綴られることを目指して。

(支援センターそしん 鈴木 綾子)

地域支援センター そしん

『地域の声をかたちに！』

重症心身障害児・重複障害児の家族の情報交換・交流の場として、インターネットサークルを開設しました。

おーぶんすぺーす ohana
<http://www.scn-net.ne.jp/~sosinkai/ohana/>

自立におけた地域生活



児童デイサービス

そしんの児童デイサービスは未就学児・小学生を対象に、平成十七年十二月にアパートの一室でスタートしました。三年目を迎えた現在は活動場所を移し、様々な地域のことどもたちが通っています。

泣いたり、怒ったり、笑い転げたり、いろいろな表情であふれており、毎日がとてもにぎやかです。マットやトランポリンで体を動かしたり、絵を描いたり、リズムあそび、体あそび、創作あそびを軸に活動をしています。また、おや

も含めた子ども達の登場により、とてもにぎやかで暖かな場所へと変わりました。

この事業に利用者やご家族の方が何を期待されているか、我々が何を提供すべきか、まだまだ模索しながらの活動ですが、学校と家庭のみの生活環境ではなく、自分が生活する地域で中高生の皆が存在場所を見つけ、発見とチャレンジを

つ作りやお誕生日会、季節の行事も取り入れています。

日々の様々な活動を通して、子どもたちの豊かな表情や数か月前、数日前とは違う小さな小さな成長を感じられることは、私達職員にとってもうれしい発見です。こともたちの生活の中で、そしんが「くしゃくしゃの笑顔」築きたいという気持ち

ち」のひとつの引き出しとなるよう、これからもみんなと二階に歩んでいきたいと思えます。

(支援センターそしん 高木 沙巳)



タイムケア

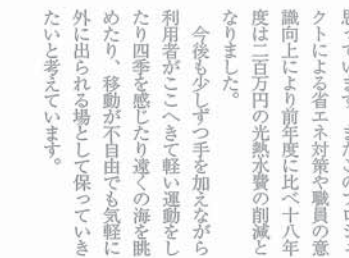
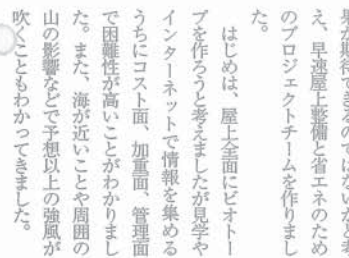
(中高生放課後支援)

中高生放課後支援事業は、大磯二宮にお住まいの障害をお持ちの中高生を対象に、下校後の活動場所として平成十九年一月中旬より事業を開始しました。

毎週月曜日から金曜日に、内容はその日の利用人数や状況によって変わりますが、調理等の体験実習や創作活動、散歩やボール遊び等の体を動かす活動、レクリエーションやゲーム等の利用者同士が交流をもてる活動を行っています。今までなら人も減り少し淋しくなる夕方の時間帯が、児童デイ

しながら達成感を味わえる、自分探しができる、そんな場所を目指したいと考えています。

(支援センターそしん 内山 泰也)



素心学院の屋上には電気設備やボイラーのほか、とても広いスペースがあります。移転直後からここを何かに使えないかという考えがありました。それを利用者が集まれる場所にしたと思います。素心学院の利用者は平均年齢が五十二歳を超えました。高齢の方は八十五歳です。多くの方が高齢者と呼ばれるにふさわしくなってきました。髪や白髪が目立つだけではなく、足元がたどと

しくなった人たちが非常に増え、車椅子や歩行器を使用している方もいます。そういう状況の中で、それまで無かったリスクが発生し「移動」することに細かい配慮が必要になります。工夫や努力を重ねていますがそれでも屋外に出る機会は全般的に減ったと思います。今後ますます高齢化することは避けられない中で、いかに屋外の空気や季節の移り変わりを感じてもらおうかが日常の課題になると

おもいます。

一方で大きな建物になった分、光熱水費の増加が顕著になりました。エアコン、照明、風呂等生活に係るすべての面で電力消費は高く、フリーに使っていいは、どこまでお金がかかってしまうかわからない。何らかの対策が必要でありました。

と考えたのです。

屋上は利用者が靴を履かえる事無くエレベーターを使えば寮から誰でも直に外に出られる。なおかつ広く開放感があり、フェンスが施されているので安全に過ごせる。緑化することで悪い場所にもなり建物内の温度の安定にも効果が期待できるのではないかと考え、早速屋上整備と省エネのためのプロジェクトチームを作りました。

実現可能な形態を模索する中で芝生と花壇をベースにした緑化と憩いの場としての整備になりました。施行にあたっては保護者会からも寄付を頂戴し、費用を有効に使用するために職員の手作りでおこないました。時間がかりましたけれど、またふきつちよな部分もありますがいいものができたと思っています。またこのプロジェクトによる省エネ対策や職員の意識向上により前年度に比べ十八年度は、三百万円の光熱水費の削減となりました。

屋上整備のこと

素心学院
 施設長 荻原勝己





理樹は我家の次男坊、湘南養護学校の中学一年生です。小五の十一月に始まった児童デイサービスから、今はタイムケア（中高生放課後支援）でお世話になっています。理樹は知的障害のある自閉症児です。幼児期は本当に鉄砲玉の様な多動児でしたので、外出時にも家にいる時も常に目、あるいは

手が離せませんでした。家中の物を全部引っぱり出し、冷蔵庫や天袋にまで上って行く。外へ出れば車道へ飛び出し、かと思えばエアコンの室外機に釘付けで動かさない。「いけません・ダメ」という言葉は通じません。夜中に脱走し、警察に保護された事も一度ならず…。よく事故に合わずこれたものです。どうしてその頃に児童デイがなかったのか。というのが本当のところ。そんな大変な時期でしたが、理樹の笑い声は家族みんなを笑顔に消してしまい、すべての困った事を帳消しにしてしまおうとした。今ではあの多動ぶりがうその様に落ち着き、会話も大分できる様になりました。それでも一般の中学生の様に部活をしたり、友達と遊んだりできません。放課後や長期休暇に楽しんでく過くさせて頂いてたいへん感謝

いつも笑顔で!! (できる限り) をモットーに素心学院保健室に勤務し五年目になりました。利用者の方の笑顔や心遣いに元気をもらっています。初心を忘れず、慣れることのないようお手伝いできればと思っています。

(素心学院看護師 田辺 孝子)



私は利用者の方の「笑顔」が好きです。このデイセンターで勤務ができたことに感謝しています。これからも、利用者の方々が少しでも多く笑顔で生活が続けられるよう、健康管理のお手伝いをしていきたいと思っています。

(素心デイセンター看護師 酒井 和子)

平成十九年四月より看護師として仲間入りし、障害児のお預かり・健康相談・発達支援といろんな場面で活用していただいています。利用される方々に安心感を提供し、地域に根ざしていきたいと思っています。よろしくお願います。

(支援センターそしん看護師 木村 尚子)

支援センターそしん 家族ペンリレー

理樹 土屋美奈子さん(母)



手が離せませんでした。家中の物を全部引っぱり出し、冷蔵庫や天袋にまで上って行く。外へ出れば車道へ飛び出し、かと思えばエアコンの室外機に釘付けで動かさない。「いけません・ダメ」という言葉は通じません。夜中に脱走し、警察に保護された事も一度ならず…。よく事故に合わずこれたものです。どうしてその頃に児童デイがなかったのか。というのが本当のところ。そんな大変な時期でしたが、理樹の笑い声は家族みんなを笑顔に消してしまい、すべての困った事を帳消しにしてしまおうとした。今ではあの多動ぶりがうその様に落ち着き、会話も大分できる様になりました。それでも一般の中学生の様に部活をしたり、友達と遊んだりできません。放課後や長期休暇に楽しんでく過くさせて頂いてたいへん感謝

職員紹介

皆様はじめまして。平成十九年五月二十一日から素心会の事務局総務課で勤務をさせていただいている伊佐友志と言います。

持つて元気な生活を送っていると感じています。また私は素心デイセンターや地域支援センターそしんに色々な資料を貰い向うのですが、利用者の方々は眩しい程の笑顔を見せて近づくに連れてくれました。真っ直ぐな心で私の緊張感も和らぎました。これからも楽しく関わっていきたくと思っています。

(素心学院事務局 伊佐 友志)



紀子は昨年夏で三十一歳になりました。幼ない頃多動行動の真只中に居た時は、片時も目を離す事が出来ない程で「一体どんな風に育つのだろう。」と日々不安で心配でしたが、度々のひきつけ以外は大きな病気もせず丈夫に元気に大きく育ってくれました。小学校の入学

素心デイセンター 家族ペンリレー

宮戸紀子さん 宮戸昌江さん(母)



夕食の献立を考えたり、音楽を聴くのが大好きかと思えば「こだわりが強かったりで皆さんを戸惑わせてしまおうかと思いますが、これからもどうぞよろしくお願い致します。

の日、担任の先生との約束「二校時の間教室から出ないでいられる様に頑張りましょう。」が今では嘘の様です。健康上も少し減量しなければならぬのですが、紀子自身は必要性を感じてくれないので仲々思う様にいきません。でも最近ばかりと女性らしい気持も目覚め、おしゃれにも関心を持ち二人で洋服見立て歩く事も多くなりいる様なので、もう少ししたら体の方も引き締まってくるのではと期待しています。

素心学院 家族ペンリレー

坂井稀久江さん 坂井寛明さん(弟)



皆様今日は、今更改めて申し上げる事でもありませんが現在聖書寮に入寮して居ります坂井稀久江でございます。思えば昭和四十二年二月十七日素心学院にお世話になって以来丁度私の歳の半分に達し、本当に歳月の経つのは早いもんだなーと痛感して居ります。そ

して代々の学院長を始め、諸先生方は勿論、学院関係者と院生の方々の協力と理解を賜りまして今日の私達があるんだと感謝して居ります。今考えると私がお世話になった当時は以前の場所でもありましたが生徒も殆んどが若く幼い方々であったと記憶して居ります。そして運動会を始め納涼祭餅つき大会、旅行会、クラブ活動等、種々な楽しみを比の四十年味あわせて頂いた事は人生に於て何物にも代え難いものと感じて居ります。その長い学院生活の中でも特にショックだったのは雨が降ろうが必ず面談に来ていた母が平成四年半は痛の為急死した事でした。然し作ら私も何とか気持を取り直し今日迄頑張っ居ります。今では私も学院内では二を争う



最高齢に達し、非常に頑固で我儘者で扱いにくい、せうがそれなりに楽しい生活を送らせて頂いて居りますので今後とも何卒よろしくご理解下さいませ様お許し下さる事を願って居ります。